

鉄道が開通し、太陽暦が採用された 150 年前

《男性は長髪を切った。ますます洋服を採り入れるようになった。佩刀禁止が行われた。最初の鉄道がしかれ、最初の銀行が設立された。教育諸法が制定され、太陰暦が太陽暦に代わった。日曜日は正規の休日たるべしと布告された。軍隊は改編され、義務的徴兵制度が採用された。国家財政は統一された。法律は成文化された。欧米化することは時代の要請であった》

ことし生誕 160 年を迎える新渡戸稲造が「幼き日の思い出」で、明治時代初めの世の中の変わりようを綴っている。

新渡戸は、1862（文久 2）年 9 月 1 日（旧暦 8 月 8 日）に南部藩士新渡戸十次郎の三男として生まれた。父親が亡くなり、叔父太田時敏の養子となって、数え 10 歳で上京した。「東京日日新聞」創刊の前年、1871（明治 4）年である。

「最初の鉄道」開業式を、「東京日日新聞」は第 181 号 9 月 13 日付で報道している。明治天皇が式典に臨まれ、新橋—横浜間を往復された。

全文 67 行。紙面全体のほぼ半分を占めるが、見出しも写真もない。

《前日迄ハ暴雨ナリシガ、当日ハ麗シキ天気トナリ》と書き出し、《我輩モ此恩許ヲ蒙リ非常ノ盛典ヲ目撃シ親シク天威ヲ排スルヲ得タリ》。

開業式が行われたのは、太陽暦で 10 月 14 日。この日が「鉄道の日」になっている。

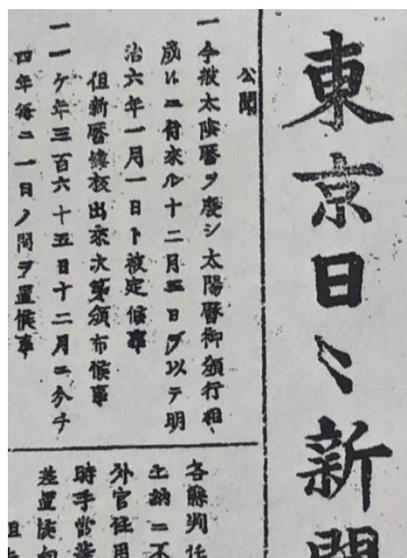


1972（明治 5）年の最大のビッグイベントは、太陽暦の採用ではなかったか。旧暦の明治 5 年 12 月 3 日を新暦の明治 6 年 1 月 1 日とした。明治 5 年 12 月は、2 日しかなかった。

《太陽暦御発行の御布告を二百卅二号に記載せしに本局及び取次所へ来る買人雲の如く霞の如く十日十一日両日に売却の高一万に過ぎたり、依て十二日には再度活字を組立てしに尚買人麤集し本日迄の売却高殆ど二万五千に過たり》＝「東京日日新聞」第 238 号明治 5 年 11 月



新橋駅の「東京日日新聞」売店（広重画、部分）



明治 5 年 11 月 9 日付「東京日日新聞」第 232 号

16 日付。

「東京日日新聞」は、改暦の太政官布告を 11 月 9, 10 日両日掲載した。それが爆発的に売れ、増刷したというのだ。



新渡戸稲造は、1933 年（昭和 8 年）10 月 15 日にカナダで亡くなるが（享年 71）、国連事務次長を退任した後、4 年半、毎日新聞の顧問として「英文毎日」の Advisory Editor を務めた。社説やコラムを担当したが、「大阪毎日新聞」「東京日日新聞」にも連載記事などを書いた。

（堤 哲）